

# ハマスゲ

はますげ  
浜菅

カヤツリグサ科

## アスファルトを突き破る底力

私たち現代人の生活は、大きく土とかけ離れてしまっている。どこもかしこもアスファルトやコンクリートで埋め尽くされていて、ややもすると土をまったく踏むことなく一日を終えてしまうこともある。しかし、どんなに土が少なくなっても雑草は土に根ざして生きている。かたいアスファルトで大地を覆われてしまうと、雑草は反骨心をたぎらせて、アスファルトを持ち上げて芽を出すことがある。小さな雑草のどこにそんな力が秘められているのだろうか。

植物の細胞の圧力を測ると、五〜十気圧もあるという。車のタイヤが二気圧程度なのに比べるとかなりの圧力だ。これだけの圧力で休むことなく押し続けるから、ついにはアスファルトをも突き破るのである。

植物の細胞がこれだけの高い圧力を持っているには理由がある。植物は土の中から水分を吸収しなければならぬ。しかし、土は水分を吸着してしっかりと抱え込んでい

るから、吸収するというのはそれほど簡単なものではない。この水分を土から引き裂か

なければならぬのだから相当の力が必要となる。この吸引力が浸透圧と呼ばれる圧力である。細胞内が吸収された水で満たされると、膨れた風船のようになる。この圧力が膨圧である。水分の少ない乾燥地帯にすむ植物は特に強い圧力を持つ必要がある。これらの圧力によって、雑草のあるものについてはアスファルトを突き破るまでになったのである。

ハマスゲもアスファルトを突き破って道路や駐車場などで生育する雑草の一つである。ハマスゲは地下に塊茎かいけいを持っていて、そこから芽を出し、アスファルトを破って地上にあらわれるのだ。

アスファルトを破らなければ地上に芽を出すことができないハマスゲは不遇の環境にある。しかし、その困難を乗り越えたとき、ハマスゲを苦しめた逆境は味方になる。苦勞して突き破ったアスファルトが、こんどはハマスゲを守るかたい鎧となるのだ。草むしりをしようとしても、ハマスゲは葉がちぎれるばかりである。大切な塊茎はしっかりとアスファルトの下に守られていて、人間は手をつけることができない。

ハマスゲはアスファルトの下の地面に地下茎を張り巡らせていく。そしてあちらこちらに塊茎を作り、ふたたびアスファルトを持ち上げて地上にあらわれる。地下壕を利用したゲリラ戦さながらの暗躍である。





ハマスゲは別名を「香付子<sup>こうぶし</sup>」という。「畑にこうぶし、田にひるも」といわれ、ハマスゲはしつこい畑の雑草の横綱格と評された。一方、田んぼの雑草の横綱とされた「ひるも」の凶鑑の名前はヒルムシロである。猛威を振るって農民を苦しめたヒルムシロだが、除草剤の普及により、今ではすっかりおとなしくなってしまった。しかし、落ちぶれたライバルを尻目にハマスゲは健在である。除草剤で地上の葉は枯らされても、地下にある塊茎や地下茎まではなかなか枯れることがないのだ。

ハマスゲの別名である香付子の付子とは、猛毒で有名なトリカブトのことである。ハマスゲの塊茎が付子に似ているところから、そう呼ばれるようになった。ちなみに、この付子の毒を飲んだときの苦悶の表情が「ブス」という言葉の語源になったともいわれている。

ハマスゲの塊茎が日の目を見ようとしなないのは、なにもブスだからではない。踏まれても、むしられても、除草剤をまかれても、びくともしない。そして、アスファルトさえ突き破る。

もしこの力の源を白日のもとにさらすとしたら、さすがのハマスゲもまたたく間にしておれてしまうのだろう。「能ある鷹は爪を隠す」、目に見えないところに力の源を持っていることこそが、ハマスゲの強さの秘密なのである。

## 特徴 [編集]

ハマスゲ (*Cyperus rotundus* L.)は単子葉植物カヤツリグサ科カヤツリグサ属の植物である。スゲと名が付いているがスゲ属ではない。乾燥したところにもよく育つ多年草である。

地下に塊状の茎を持ち、細い縄のような匍匐茎を伸ばして広がる。まばらな群落を作るが、それほど大きな集団を見ることは少ない。

根出葉をよく発達させる。葉は細くて長く、それほど硬くはなくてざらつかない。幅は2-6mm。先端はゆるやかに垂れる。主脈の両側に膝があって断面は浅くM字状。深緑で非常に強いつやがある。

初夏から秋にかけて花茎を出す。花茎はまっすぐに立ち、やや細くて深緑、やはり強い照りがある。その先端に花序を付け、基部の苞は3枚ほど、長いものは花序より長い、あまり目立たない。花序は1回だけ分枝する。小穂は線形で長さ1.5-3cm程度、互いにやや寄り合って数個ずつの束を作る。小穂の鱗片は血赤色で艶があるが、やや色が薄い場合もある。果実は鱗片の半分程度。

雑草として畑地に生えることも多い。根茎や匍匐茎を持つので引き抜きにくい上に根絶が難しく、その点ではやっかいであるが、背は高くないので庭などではそれほど邪魔にはならない。

ハマスゲ *Cyperus rotundus* (カヤツリグサ科 カヤツリグサ属)

ハマスゲは本州から南西諸島、世界の熱帯～亜熱帯に広く分布する多年草。海岸の砂浜などに多いことからハマスゲの名が付いたが、路傍や畦、芝生などの強く刈り取られる草地にも広く生育する。茎の根元は不明瞭ではあるがシュロ毛に覆われた球根状に肥大する。カヤツリグサの仲間は似たものが多いが、このような貯蔵庫を作る種は多くはない。この点はよい区別点であり、花穂がなくても路傍に生育していて、球根があればハマスゲと同定して良いであろう。地下の根茎肥大部は通経などの薬効があるとされる。



## ハマスゲ



ハマスゲ(クグ)



ハマスゲ



草種 :	多年生広葉雑草カヤツリグサ科	生育期間:	5~11月
分布 :	本州(関東以西)、四国、九州、沖縄	繁殖 :	種子および地下茎
草丈 :	15~40cm		

## 生態

海岸の砂浜や道ばた、グラウンドなどの日当たりの良いところに生育します。芝生に入ると芝を枯らすほど増えるので芝生内では困る雑草の一つです。茎の断面は三角形、葉は線形で先は次第にとがり、長さは8~15cm、濃緑色で光沢があります。7~10月に茎の先から枝を出し濃褐色の穂をつけます。海岸近くに限らず、内陸地にも普通に見られ、路傍や駐車場のアスファルトを押し上げて生えるほどの生育力が強い雑草です。















*Cyperus longus* L.



